



テストの結果、 どう受けとめたら いいの？

テストの結果は、これから子どもが伸びていくための良い資料だと考えることです。
もし結果が良ければ、子どもがいつそう自信をつける機会になります。
もし結果が悪ければ、これからもっと伸びていくチャンスになります。
どちらであっても、子どもが成長していくために活用できるのです。
「うちの子はテストを見せてくれない。どうすればいいんですか？」
と尋ねられたことがあります。それは、悪いテストを見せれば怒られるとわかっているからです。

親が怒らなければ、隠したり、ごまかしたりすることはしないでしよう。
ですから、**避けたいのは、悪い結果を親が怒って、一方的に叱りつけることです。**
「えっ、なあに、この点!？」と驚くことはあっても、
「おまえはダメね」
「誰に似たのかね」
などと、子どもの能力や人格を否定するのはいけません。
紙に書かれたテストの結果は、現在の子どもへのすべ
ての能力や人間性を評価しているわけではありませ
ん。
それに、親の働きかけや本人の努力によって、その
テストをきっかけに子どもはどんどん伸びていくもの
なのです。



まず、できているところを認める、ほめる。

できていないことに目を向ける前に、まずできていることを認めてあげるのです。

70点のテストでも、70%のこともできていると考える。

50点のテストでも、半分もできていると考えるのです。

そもそも、すべてにおいて100%は、無理です。

そんな完璧な人間はどこにもいません。

人間は失敗するもの、失敗を糧かてに成長していくものと考えます。

しかし、その前に、「全部が失敗ではなく、できていることがたくさんあること」を、親

がまず認めてあげること。

ですから、点数だけでなく、内容も見ても、ほめるところを見つけてみましょう。

「名前が丁寧に書いているね」（中学生でも名前を書き忘れる子がいますから）

「数字がきちんと書いているね」（これは計算で大事）

「最後までやって、全部に答えを書けているね」（つまりベストを尽くした！）

「こんな難しい漢字、よく読めたね。練習した成果だね」

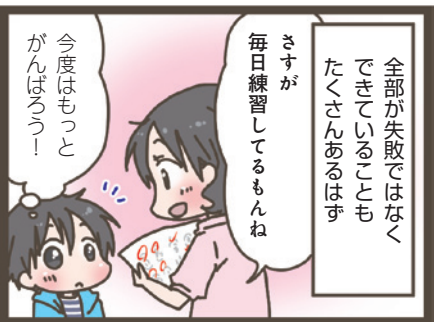
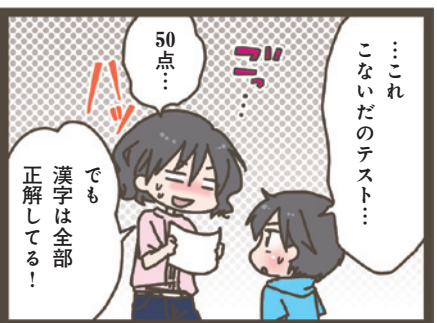
など、前に注意したことや努力目標にしていたことができているれば、それを認めてあげましょう。

子どもは、ほめられたことがうれしくて、またやりたくなります。

やる気をもって取り組みます。

そうすれば、これから先、「で

きること」が少しずつ増えていくのです。



まず、できているところを認めよう。

